

新年のご挨拶

社団法人 日本獣医師会

会長 山根 義久



新年明けましておめでとうございます。会員各位におかれましては、ご家族お揃いで新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げる次第です。

新年を迎えるたびに思いますことは、多くの山積している問題が解決されるどころか、さらに新しい難問が続出しているということです。このような状況は当然のこととされた方が良くさえ考えさせられますが、やはり問題を先送りにするのではなく、できるだけ速やかに処理、解決すべきかと考えます。

ここ数年間でも国内外を問わず大きな出来事が発生しました。その一つは、アメリカのサブプライム問題より端を発した世界的不況であります。もう一つが昨年8月30日の衆議院議員選挙の結果であります。いずれもその内容や背景が大きく異なるといえども「人間のおごり」がもたらした結果ではないかと思えます。

そのいずれもが他国の問題とか、政治の問題であるから獣医界とは関係ないと無視はできないということでもあります。現実に日本の畜産は壊滅的とはいえないまでも、大きな打撃を受けたのであります。それは飼料穀物の急激な高騰です。一時は世界の穀物価格が前年度に比較してトウモロコシをはじめ、大豆、米が3倍以上に、さらに小麦にいたっては4倍以上に値上がりました。当然飼料穀物価格に大きな影響を与え、その結果日本の畜産界も大打撃を受けたのであります。

世界の穀物生産は年々徐々にではありますが増加して推移しているのに、なぜ穀物価格が上昇するのか考えますときに、農産物のバイオエタノールへの転化によるものだという説はもちろん無視できませんが、大きな要因は拝金主義に陥った一部の輩の穀物買い占めによるものであるという説が有力であります。このたびの担当政権の交代も長年にわたり蓄積した「血管のアカサビ」を放置してきたことによるものであると思えます。具体的には小手先の改革のみで抜本的なことに対してお茶を濁してきたことの結果でもあります。

「事に破るるは得意の時に兆す」ともいいますし、「事を為すは失意の時に始まる」ともいいます。今後、我々は現状を失意と捉え、努力精進する必要があります。

今日、食の安全・安心の確保、人と動物の共通感染症をはじめ、畜産業を中心とした動物関連産業の振興、伴侶動物の保健衛生の向上、さらに動物の福祉・愛護、環境保全など社会経済の発展、国民生活の充実に獣医師及び獣医師会は重要な役割を担っています。

政治、行政、経済界も先の見えない混沌とした状況の中で、山積している獣医界の諸問題にはどのように対処していくかは重要な課題であります。

それら個々の問題を解決し、具体化するために現在、①農林水産省の「獣医事審議会計画部会」において獣医療基本方針（第3次）の制定に向けての検討が、②また、文部科学省において獣医学教育の改善・充実に向けての検討が「調査研究協力者会議」において、③さらに環境省においては、改正動物愛護管理法運営の見直しについての検討が実施されようとしているところであります。

日本獣医師会としても今後、会員各位の皆様と共に公益社団法人への移行を視野に入れて、以下のように

な課題の問題解決に向けて努力する所存です。

1 獣医学教育研究体制の改善・充実

獣医学教育改善に対する社会的期待，さらに国際通用性の観点を踏まえ，OIEでの議論を追い風として，単独の獣医学部体制として再編・整備すること。

2 産業動物診療提供体制の整備・充実

これにはまず，獣医師の就業職域偏在を是正する必要があります。そのためにも獣医学教育の充実をはじめ，産業動物部門及び公務員部門における処遇改善が急務であります。

3 小動物診療提供体制の整備・充実

この領域においては従来より行政施策としてほとんど検討がなされてこなかったのが実情であります。チーム医療体制，高度医療，夜間診療体制の確立は勿論のこと，それを推進するためにも動物看護職の資格制度化が急務であります。

4 狂犬病などの共通感染症予防対策の徹底・普及と動物の個体識別の推進

狂犬病予防対策は，あくまで国及び地方自治体の責任のもと実施すべきものであり，獣医師会としてはその実施に対し連携協力を惜しまないものです。さらに，その事業を円滑かつ実効あるものにするためには，ぜひともマイクロチップによる個体識別の普及・推進を図ること。

以上のような課題解決のためにも，国政段階において今後超党派による議員連盟を構築していただき，連携して行動を共にすることが重要です。

いかに課題が多くとも，会員の皆様や関連業界が一丸となつての協調体制があるかぎり解決できないものは何一つないのではないかと思う次第です。

最後になりましたが，都道府県・政令市獣医師会会員及び会員構成獣医師，さらに動物関連の関連業界団体・企業の皆様の益々のご健勝ご活躍をご祈念するとともに，明るい展望が開けますことを大いに期待するものであります。